



小網代通信

発行：小網代ヨットクラブ
〒238-0225
神奈川県三浦市三崎町小網代
1385-18
編集：広報委員会
編集長：里吉美恵子
連絡先：office@koaziroyc.jp

Koaziroyc Club

2024年 8月号 VOL-314

2024. 8.10 発行

今月の内容		ページ
連絡事項	(編集委員).....	1
「九州、島めぐり(後半)」	(スピリットオブトウキョウ 梅根 耕二郎).....	2~5
今後のイベント予定		
8月 KFR	:8月 18日(日) Eコース(10:25 スタート予告 タイムリミット 16:00)	
総務委員会	:8月 19日(月) 19:00~ ハイブリッド(品川でリアル会議と Zoom 会議)で実施	
夏祭り	:8月 24日(土) 11:00~14:00 クラブハウス前の受付にお越しください	
熱海ランデブーレース	:8月 31日(土) 熱海にて熱海ランデブーレース前夜祭(クルージング艇との合同開催)	
& 熱海クルージング	:9月 1日(日) 熱海ランデブーレース 8:00 頃スタート(熱海 沖)	

連絡事項

1. 8月24日(土曜日) 夏祭り 11時~14時開催予定

- ・クラブハウス前の受付にお越しください。
- ・受付は、10時30分から開始いたします。
- ・今年度より会費は、クラブ艇(1艇 3,000円)とクラブメンバー(ゲストも含む)の個人会費(1名 1,000円)の合計金額となります。20歳未満の方は無料ですが、人数把握のため受付時お申し出ください。
- ・小網代地区住民の皆様や近隣団体のゲストの方々は無料ですが、受付をお願いいたします。
- ・会場内では、できる限りプラスチック類の使用は控えております。ゴミ箱は種類別に用意しますので、ゴミの分別にご協力いただきますようお願いいたします。
- ・暑さ対策をお忘れなく。テントも設置してありますが、お子様には帽子の着用をお願いいたします。

2. 「熱海ランデブーレース」&「熱海クルージング」のご案内

メンバーの皆様には既にご案内しております通り、KFRレース委員会とクルージング委員会との共催でランデブーレースの前夜祭を一緒に楽しみましょうという企画です。申込締切は、8月9日まで。

・前夜祭

8月31日(土) 熱海にて 参加費：お一人 3,500円

・ランデブーレース

9月1日(日) 8時過ぎよりレーティング順にスタートする形式で行います。レース参加費：4,000円

個人参加もできますので、ご興味のある方は是非レース委員会 kfr_iinkai@koaziroyc.jp にご連絡ください。

九州島めぐり (後半)

スピリットオブウキョウ 梅根 耕二郎

5/13 (長崎出島→阿久根港) 朝もやが残るなか隣の小林さんとワンコに見送られて出航。対岸 MHI 長崎造船所ではフリゲート艦を製造中。長崎港を抜け伊王島大橋を目指す。島の高台に中世ヨーロッパの城のような馬込教会。さらに進み軍艦島全体が見える南側を通過しながら撮影大会。南北 500m の島に住んでいた 5000 人もの人々が日本の高度成長期を支えていたことは感慨深い。目的地の「あくね海の駅」には浮き桟橋があり無事に係留。給水、給電をセットし、コインランドリー、ビジネスホテルで風呂に入る。

5/14 (阿久根港→上甕島中甕港) 本日は近距離。上甕島は空の青、海の蒼、島の多様な緑と断崖の白がマッチして自然の織り成す美しさに息をのむ。中甕漁港では観光船乗り場横の岸壁に係留。しばらくすると営業を終えた観光船「かのこ」が我々の目の前に係留。ポディーに百合の花があしらってあり甕島は鹿の子ユリの原生地らしい。夕食後に来訪者。東京湾マリーナに勤務していたが、定年後に甕島に移住した染谷さん。ヨット仲間が懐かしいと招待を受けお宅訪問。

5/15 (上甕島中甕港→下甕島長浜港) 朝は染谷さん宅で起床。陸での睡眠の質は高く目覚めは爽やか。染谷さんに港まで送っていただく。中甕港から下甕島の長浜港までは近距離なので朝食は走りながらミニあんパン、クリームパンとコーヒー。9時前には長浜港に入港し早速レンタカーを借りて島内観光。森進一の母親が下甕島南端の手打出身で「おふくろさん」の歌碑がある。手打湾の集落には薩摩藩が大陸からの防衛のため武家屋敷を設置。積み上げられた玉石垣の屋敷廻りが今も残っている。近くの下甕郷土館で館長が一時間に渡って島の歴史、文化や自然の説明をしてくれた。DR コートのモデルは手打診療所の瀬戸上先生とのこと。昼食は昨晚染谷さんが推奨してくれた「喫茶クルミ」のミックスフライ定食で皆満腹。上中下の甕島を三つの橋が繋いでおり、なかでも中甕と下甕間の甕大橋がよい。コマーシャルに出てきそうなマリブルーの海を疾走できる。

鳥ノ巣山展望所

鳥ノ巣山展望所からのこの橋の眺望は最高。上甕島には国の天然記念物で 4km の砂州「長目の浜」があり海と池とを隔ている。天橋立と同じような眺めである。最後に、涼を取るために下甕島の瀬尾観音三滝を訪れる。高さ 55m から一の滝、二の滝、三の滝と三段階で落ちてくる緑の森に囲まれた美しい滝。



5/16 (下甕島長浜港→坊津) 湯口さんが仕事の都合で長浜港にて下船。昨晚の強風波浪が残るなか風が落ち着き始めた昼前に出航。風はブローで 24 - 26kt だがうねりが大きい。坊津入港前にはジブファーラーの外周にロープが巻き付くトラブルがあるが、無事入港し岸壁に係留。既に 17 時をまわっており漁船には人がいない。散歩中の女性に近くの「寺田屋」を紹介してもらい入浴 OK。女将に聞くと自炊のゲストハウスで欧米各国からの客も多い。一泊 3500 円が魅力。夕食はマグロの刺身にガーリックバターステーキキャベツ添え、昨晚の牛スジ煮込みと素麺で済。

5/17 (坊津泊港→硫黄島長浜湾) 出航前に給水すべくキビナゴ漁から戻った漁船に横付けし港の水道を借用。漁師によれば「やっとキビナゴが捕れるようになり、これからだ！」出航後まもなく硫黄島が水平線上に小さな姿を現す。左舷には開聞岳の見事な姿。天気もよく昨日に比べゆったりした航海。しばらくすると三島村の竹島、硫黄島、黒島、その後ろには口永良部島、屋久島が見える。硫黄島長浜湾に入ると海面が青色から突如赤茶色に変わる。温泉の鉄分が海水と反応した水酸化鉄とのこと。港に係留しているボートは水面付近が茶色に変色しており、こちらも染まりそうで心配。



町役場硫黄島出張所に入港届けを提出。もうすぐフェリーが入港するため係留場所を一旦港奥に移動するように指示あり。

フェリー出港後は明日午前中まで来ないためフェリー棧橋に再度係留。車を借りて目的の露天風呂へ。「東温泉」は断崖下の波打ち際に岩礁をくりぬいた3つの湯船が並び、源泉から徐々に湯度が下がる仕組。pH1.7の強酸性で舐めるとピリリ。断崖絶壁を見上げながら広い空と海に包まれ耳には波が砕ける音。裸のおやじ4人は感慨に耽る。温泉から上がると沖からカヤック2隻の若者が温泉に近づいてくる。危うくニアミス。島の反対側には平家城展望台。落ち延びた安徳天皇を守るために城が築かれたという。



5/18 (硫黄島長浜湾→鹿児島大泊港) 九州島巡りの最後の硫黄島に別れを告げ鹿児島大泊へ。硫黄島南側から出港すると、北北東の風が硫黄岳から吹き下ろすとともに島を回り込んだ東風が正面から吹き付けてくる。島を抜けるまではチョッピーな波にも叩かれて苦戦。佐多岬中でタックを繰り返しオンコースへ。しばらくするとエンジンに共振した異音。例によってホンダワラを引っ掻けた可能性が高い。エンジン回転数を落とす帆走主体に。すると潜水艦が浮上しポートサイドで走る我々の前を、あわやニアミスと思われるほど近くを横切って鹿児島湾の方向へ。調べると5/26に鹿児島港で潜水艦の一般公開予定があった。1135人気がない大泊港に入港し岸壁に係留。

5/19 (大泊港) 本日は強風波浪にて出航せず。近くの「福屋鮮魚店」に行き井戸端会議中のおばさま3人に風呂を尋ね民宿に電話するが日帰り風呂はNG。明日は油津に行くとおばさま達に「それならあと一晩さばれや」と言われる。昼食後には望月さんが昨日引っ掻けたホンダワラを取りにダイビング。両手に余るほどの量だった。

5/20 (鹿児島大泊港→宮崎油津) 風が北から北東のため上りが厳しい。唯一志布志湾では風が吹き抜けているためかクロスで快走。黒潮の影響もあり1ノット以下だが追い潮が助けになる。油津港に入港し一番奥の岸壁に係留。GSに軽油を依頼し、レンタカーもピックアップサービスで借りる。車でコインランドリーに寄り、日南地区の山あいにある北郷温泉へ。船に戻ると本日から参加の寺江さん(ふるたか)が待っていた。早速歓迎会で、チキン南蛮、チキンの皮揚げ、魚フライ、鰹の刺身と叩きなど。

5/21 (宮崎油津港→門川港) 午後風が北西から北東→東に振れ、なんとかクロスで艇速7ktに回復。そのまま門川に入港し空いていた岸壁に留め漁船に挨拶。近くのスーパーでたたき用薬味など調達。夕食はカツオ祭り。本鰹のたたき、スマ鰹の刺身、スマ鰹の押し寿司、他に宮崎特産の地鶏の炭火焼き。スマ鰹は噂にたがわず美味。

5/22 (宮崎門川港→土佐清水港) 5時出航だが魚を終え港に戻ってくる漁船を避けながら出港。港内外にもホンダワラが多く漂流しているので注意。朝イチで船底に潜るのは避けたい。豊後水道の中間地点に近づくにつれ北の吹き出しで快適な走りに。土佐清水に入港し、給水、給油、買出しを済ませ、旭湯で汗と潮を流す。夕食は昨晚に続き、鰹のたたき、鰹のカルパッチョ、鰹とキムチのマヨネーズ和え、地元のさつま揚げ。

5/23 (土佐清水港) 昨夜より雨のため本日は休息日。喫茶店で朝食後に帰省する望月さんを見送る。その後街外れのジョン万次郎資料館を訪問し、幕末に生きた波瀾万丈の人生を知る。

5/24 (土佐清水港→高知YC) 今後低気圧、台風が連続して来るため高知ヨットクラブを避港として長期滞在することに計画変更。早朝、下船する小林さんに見送られ3人で土佐清水を出航。足摺岬を回航し進路を高知に向けてと潮に押され艇速が6→8kt台に。黒潮恐るべし。高知港に近づくと漂流物やホンダワラが増え船先でワッチしながら船を進める。浦戸大橋をくぐり90度右へ進路を変え高知ヨットクラブのゲスト棧橋へ着けるとクラブ事務局の東崎さんが出迎えてくれる。近くの船の方もモヤイを取ってくれ「ゆっくりしてってください」と言われるなどホスピタリティーはお遍路さんへの接待文化からか。



5/25 (高知YC) 台風に向けて岸壁から直接モヤイを取るなど船を整理。お母様の喪中にも関わらず竹田さんが車で迎えに来てくれ市内観光。地元で人気のうどん店「浜うどん」でランチ。近くの長宗我部元親の銅像を見るが、女性ファンも多い。桂浜の坂本龍馬記念館、太平洋が見渡せる丘の坂本龍馬像。そして牧野殖産物園(朝ドラ「らんまん」の影響か高知以

外からの観光客も多い。隣接する竹林寺（31番札所）にお参りして船に戻る。

5/26（高知 YC）日本一の高知朝市にバスで出掛けるが Suica が使えない。道路の片側2車線を東西1kmに渡って350店を端からゆっくりと見て歩く。地元のおばちゃんに勧められ田舎寿司と柏餅を購入。朝市脇の有名な「ひろめ市場」というフードコートを発見。朝からビールに酔ったときのお客が多く寺江さんも飲みたそう。朝市通りそばの高知城も見学。竹田さんが高知城でピックアップしてくれ清流日本一の仁定川沿いの「いの町紙の博物館」で高知和紙の歴史を館員から聞く。江戸末期に紙漉き用具を改良し日本全国に広め生産性向上に寄与、特に土佐典具和紙はその薄さ強度から美術品の修繕など今でも世界中で使用されている。佐川町の青山文庫では維新志士の遺品、西郷隆盛、吉田松陰の書など展示。なお、地元の司牡丹酒造は漫画家 黒金ヒロシの実家。

5/28（高知 YC）明け方から雨が強まる。モヤイとフェンダー確認しコックピットのドレンが豪雨で詰まらないように片付け。豪雨の中、竹田さん来てくれ離れし市内の温泉施設まで運んでもらう。内湯や露天風呂、サウナ、食事処、休憩場所で3時間ほど時間を過ごす。帰船する頃には雨も上がり空が明るくなる。昨日入港し我々に横抱きしていた「速魚Ⅱ」の服部さんに声をかけ夕食を一緒に食べる。ヨットで巡礼中。一等航海士だがフェリーや外洋船に乗っていた経歴話が面白い。

5/29（高知 YC）低気圧一過の好天でマットレスや床板をはずして天日干し、ドレン除去し、潤滑油を給油など。午後には竹田さんとアンパンマンミュージアムへ。やなせたかしが高知出身で2025年前期のNHK朝ドラはやなせたかし夫婦の物語なので先取りで訪問。オヤジたちが子連れ夫婦に混じって見学している図も悪くない。今夜も隣の服部さんと夕食を共にする。自衛隊艦艇は民間の船舫から国旗を半下して敬礼を受けると自衛隊艦艇も対応するので、浮上している潜水艦にやってみるとよいなどの話で盛り上がる。



アンパンマンミュージアムにて

5/30（高知 YC）明日の出港準備で対岸の漁協で給油するが極めて安い。午後には竹田さんが望月さんを空港でピックアップして登場。肉屋で土佐赤牛、鳥手羽フライを購入。船に戻り五人で焼き肉パーティを行う。土佐赤肉は赤身とさしのバランスがよく皆満足。竹田さんには今回の高知に滞在中に本当にお世話になり大感謝。

5/31- 6/1（高知 YC→五ヶ所湾）朝目覚めると雨がポツポツ。昨晚台風が日本南方を通過したので午前中に雨があがることを期待しながら一週間お世話になった高知 YC から出港。室戸岬を回航し進路を潮岬中に向けてと台風の影響が真正面からの風が強まり、うねりにバウを叩かれ、空からは雨が降り続き耐えるの時間。皆に聞くと「問題ないよ」とヨットマンの痩せ我慢が心強い。昼飯は肉まんを電子レンジでチン。冷える身体には助かる。徐々に雨も上がり暗くなる前に天気も好転しひと安心。1800 から二人ワッチ体制。風も安定したアビーム。その後風も 22kt→8kt と徐々に落ちてくる。0200 ワッチ交代で起床。ワッチ中の二人に何か欲しいときと「甘いもの！」。お茶を入れミニあんパンを出す。左舷には北斗七星、右舷には航海灯の列。潮岬を回航した/する赤緑灯火の本船が列をなして走っている。本日は土曜早朝だがこれらの荷物はいったい何処に行くのやらと思いを巡らす。0340 右舷前方の北東の漆黒が青みがかりマジックアワーを楽しむ。五ヶ所湾に近づくと周り一面がホンダワラの海。できるだけ大物を避け走ること1時間、五ヶ所湾口にたどり着く。

6/2（伊勢志摩マリーナ）終日雨が予想されるため休暇とし各自自由行動。

6/3 - 6/4（五ヶ所湾→小網代（下田））この季節の早朝の五ヶ所湾は緑深く小鳥のさえずりが聞こえて気持ちよい。メインセイルをあげ一息ついたところでコーヒーを入れる。伊勢湾中辺りで北から北西に風が変わりランニングで快適な走り。1500 軽いのぼりだが海面の色も濃紺で 1kt 程度の黒潮に乗り川瀬だ。1700 夕食のお弁当を食べ 1800 から前回と同じ2時間交代の二人シフトに入る。御前崎を越え風が南西→南→南東→東とシフトしジブを巻く。徐々に風が強くなってきたところでシフト交代。0100 寝ていると激しいローリングとピッチングで目が覚める。神子元島を越えた辺りだが 30kt の風にのぼりで苦戦。スプレーも激しくワッチの二人は全身びしょ濡れ。予想よりも強風でしばらくこの状況が解消しない。幸い下

田港が目の前のため一旦下田に入港で計画変更。本船航路に注意しながら下田港に入港し下田ボートサービスに係留。時刻は0320。着替え温かいココアを飲み一眠り。「順風満帆なときほど危険」の教を身を持って味わった。

6/5（下田→小網代）昨日まで風が吹き抜けていた港内は今朝は静か。0630 出港。須崎中までアビームだが、その後小網代までは真上り。12kt で昨晚よりは良いが、正面からの波にたたかれる。せめて大島方面への黒潮分流に乗りたい。0900 には風波ともに穏やかになり順調な機走。昼には風が北東から東にシフトを始めメインセールに風が入るが微風で安定しない。房総半島、三浦半島がくっきりと見え我が家にやっと帰ってきた。痛んだ個所の修理依頼でいったん油壺YBSに入港。小林さんが迎えに来てくれた。YBSに係留スペースがなく小網代に戻りバースに着くとプラスチックブイが見えない？ 大潮満潮のタイミングでブイが海面下に沈んでいた。舳を取ってやっと一息。最後の最後まで難儀する。

今回のクルージングは出航前チェックを入念におこなったが、清水ポンプ故障、エンジン始動せず、エンジン停止スイッチ故障など電気系トラブルが目立った。しかし致命的なトラブルには見舞われなかった。何よりも参加者全員が怪我なく無事に戻って来られたことに感謝。乗船メンバーの経験と冷静な判断そして陸上でサポートしてくれた仲間に大いに助けられた。皆さんには心よりお礼を申し上げます。（おわり）